

「様々な楽器で主に向かって讚美。」 II 歴代誌5章1、2、11~14節

私はバグパイプと太鼓の軍楽隊が好きで、ユーチューブでよく見ています。戦争の時は、バグパイプを吹きながら前進して行き、兵士を奮起させます。スコットランド部隊は、現在でも従軍して行進しているそうです。

太鼓やラッパの軍楽隊は、何よりも兵士の士気を高揚させます。私もトランプेटで「星条旗よ、永遠なれ!」(スーザ、元アメリカ海兵隊音楽隊長)を吹きましたが、まるでアメリカ国民になったように高揚したことを覚えていきます。

人生に音楽がなかったら、とても味気のない、つまらないものになるでしょう。演奏はできなくても、歌うことはできます。下手でも、音痴でも、感動には変わりありません。聖歌にも行進曲風の曲は、2拍子ではありませんが、「進め主の兵士らよ」、「雄々しくあれ」などがあります。

クリスチャンになつて神に讚美することを経験してから、自らの悲哀を歌うことはなくなりました。ただ、人々の歌うのを聞いて、神を知らない状態での喜怒哀楽を思い見ることはあります。それは、やはり解決と平安のない、この世の思いを現わしたものであり、私には自らの救いと福音を感謝するものとなり、また伝道の使命をも覚えるものです。

讚美は、それまでの苦勞や試練を乗り越え、感激したからこそ生まれるものです。先週の小坂忠さんのように、「勝利者はいつでも苦しみ悩みながら、それでも前に向かう。」姿勢がなければ、感動の讚美はありません。

美空ひばりさんの「川の流れるように」には、「ああ川の流れるように、穏やかにこの身を任せていたい」と人生を悠然と生きていこうという思いがあります。それは神を知らない人の悟りでしょうかありません。若い時によく歌った加山雄三の「旅人よ」では、「草は枯れてもいのち果てるまで、君よ夢を心に若き旅人よ」とこれも夢を持って生きようという呼びかけです。更に、ビートルズの「イマジン」ですが、「想像してごらん 天国なんてないんだと ほら、簡単でしょう。下には地獄はないし、僕たちの上には、ただ空があるだけ、さあ 想像してごらん、みんながただ今を生きているだけなんだ」と、人間が欲を持たず仲良く生きれば、それが幸せという虚無主義のような歌です。意味を考えずに世の中の歌を歌つてはいけません。

つまり、神を信じない人々は、人生のある一面を歌い上げ、共感を持つ人々が同調しているのです。クリスチャンになつて、演歌の惚れた捨てられたなどの歌を口ずさむのは、信仰が正常ではありません。

それでも苦勞の多い人は、十字架の歌を讚美するかもしれない。自分を励まそうとする人は、「罪思い出さず」、「疑い憂いに困まるる時」などを歌うでしょう。私の信条の讚美は「歌いつつ歩まん」です。

讚美の理由は、神の偉大さ、神のはかりごとの奥深さ、神の私たちに對する慈愛と恵み、などがありますが、讚美の対象としては、神以外は相応しくありません。讚美ができるのは、試練や逆境においても神は必ず見守っておられる、益としてくださる、などの確信が必要です。従つて、讚美こそ、その人の信仰のバロメーターになるのです。

果樹を植えてその実を3年は食べてはならず、4年目は「讚美の献げ物」(レビ19・24)で、5年目に食べて良いとは、収穫が神からの物であるという信仰告白であり、「収穫を増す為である。」(25)。

エジプトで奴隷であったイスラエルの民を救い出したので、「この方こそあなたの讚美」(申命記10・21)。「主は御民に安息を与え、どこしえまでもエルサレムに住まわれる。」(I 歴代誌23・25)ので、「朝毎に立つて主を褒めたたえ、讚美し、夕べにも同様にする。」(同30)。敵の大軍に勝利することを信じて、「彼らが喜びと讚美の声を上げ始めると、主は伏兵を設けて、襲わせた」(II 歴代誌20・22)。

崩壊した神殿の再構築に際して、「主の宮が据えられたので、民はみな主を讚美して大声で叫んだ。」(エズラ3・12)。ネヘミヤは、エルサレムの再建に際して「感謝の歌を献げる二つの大きな讚美隊として配置した。一組は城壁の上を右の方に」(ネヘミヤ12・32)、「感謝の歌を献げるもう一組の讚美隊は、左の方に進んだ。」(同38)。軍楽隊です。

復活の主イエスに会った弟子たちは、「神を讚美し、民全体から好意を持たれていた。」(使徒2・45)。生まれつき足が萎えていた乞食の人は癒されて「飛び跳ねたりしながら神を讚美しつつ二人と一緒に宮に入つて行った。」(同3・8)。聖霊のバプテスマを受けた異邦人は、「異言を語り、神を讚美」(同10・45)しました。

今日の箇所は、神殿が完成した喜びと感動を讚美するものです。歌い手、ラッパ、シンバルが鳴り響き、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」(23)と声を合わせて讚美したのです。このように、讚美の中で「主の栄光が神の宮に満ち」(5・15)るのです。私たちも、状況に関わらず讚美の声をあげましょう。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳 2017】

Ⅱ歴代 5:1 こうして、ソロモンが【主】の宮のためにしたすべての工事が完了した。ソロモンは父ダビデが聖別した物、すなわち、銀、金、各種の用具類を運び入れ、神の宮の宝物倉に納めた。

5:2 それからソロモンは、イスラエルの長老たち、および、イスラエルの部族のかしらたちと一族の長たちをすべて、エルサレムに召集した。ダビデの町シオンから【主】の契約の箱を運び上げるためであった。

5:11 祭司たちが聖所から出て来たときのことである。列席したすべての祭司たちは、務めの組分けにかかわらず自らを聖別していた。

5:12 また、歌い手であるレビ人全員、すなわち、アサフ、ヘマン、エドトン、および彼らの子たちや兄弟たちも、亜麻布を身にまとい、シンバル、琴および豎琴を手にして祭壇の東側に立ち、百二十人の祭司たちも彼らとともにラッパを吹き鳴らしていた。

5:13 ラッパを吹き鳴らす者たち、歌い手たちが、まるで一人のように一致して歌声を響かせ、【主】を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルと様々な楽器を奏でて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と【主】に向かって賛美した。そのとき、雲がその宮、すなわち【主】の宮に満ちた。

5:14 祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。【主】の栄光が神の宮に満ちたからである。

2Ch 5:1 So all the work that Solomon had done for the house of the Lord was finished; and Solomon brought in the things which his father David had dedicated: the silver and the gold and all the furnishings. And he put them in the treasuries of the house of God.

5:2 Now Solomon assembled the elders of Israel and all the heads of the tribes, the chief fathers of the children of Israel, in Jerusalem, that they might bring the ark of the covenant of the Lord up from the City of David, which is Zion.

5:11 And it came to pass when the priests came out of the Most Holy Place (for all the priests who were present had sanctified themselves, without keeping to their divisions),

5:12 and the Levites who were the singers, all those of Asaph and Heman and Jeduthun, with their sons and their brethren, stood at the east end of the altar, clothed in white linen, having cymbals, stringed instruments and harps, and with them one hundred and twenty priests sounding with trumpets-

5:13 indeed it came to pass, when the trumpeters and singers were as one, to make one sound to be heard in praising and thanking the Lord, and when they lifted up their voice with the trumpets and cymbals and instruments of music, and praised the Lord, saying: "For He is good, For His mercy endures forever," that the house, the house of the Lord, was filled with a cloud,

5:14 so that the priests could not continue ministering because of the cloud; for the glory of the Lord filled the house of God.